

ビジネスプロデュースカ 養成ラボ2020

振り返りレポート (第3回)

ビジネスプロデュースカ養成ラボ B-LABO 第3回は、2020年10月2日に開催されました。

◎ゼミナール編 第3回

日 時：2020年10月2日(金) 10:00~15:30

会 場：オンライン(Microsoft Teams)

内 容：「理想追求型QCストーリー」、事例のワークによる理解の深化

参加者：9名

10時よりゼミナール編を開講しました。開催前に、10月30日(第5回)午前・11月27日(第7回)午前、ゲスト講師を迎えて開催する特別講演の説明がありました。また、最終回の予定(静岡大学 S-port 大会議室にて開催)について案内がありました。

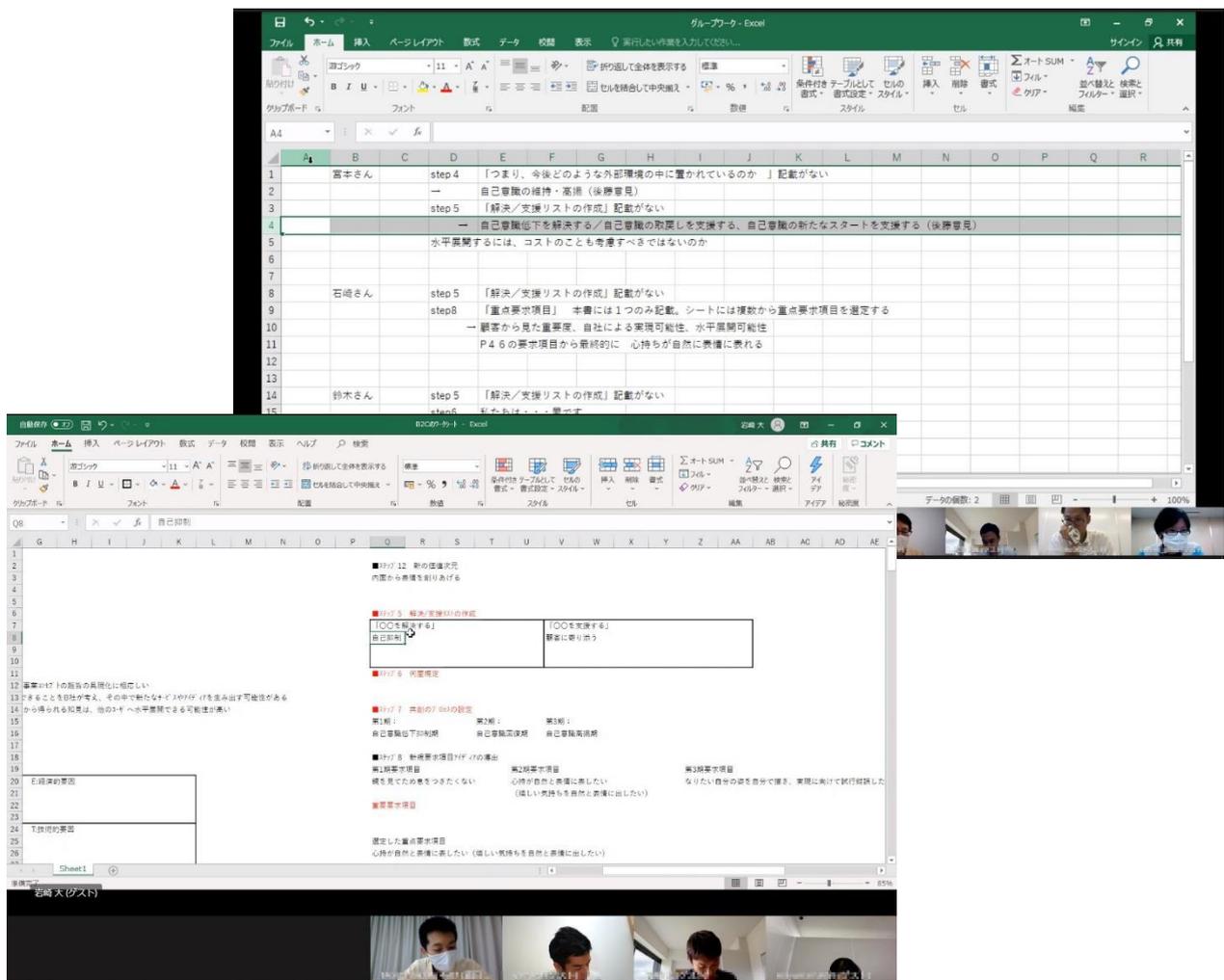
- (1) 江田講師から、前回のグループワークの結果を踏まえて、コメントがありました。現・価値次元から新・価値次元としてパラダイムシフトを起こした例を検討しましたが、その新しい価値次元創造を可能にしている“新商品アイデア”についての検討が足りないことが指摘されました。その部分は、理想追求型 QC ストーリーのワークシートそのものに該当する内容であることが説明されました。
- (2) テキストの第5章から最後まで概略が示されました。B-LABO 修了後には、受講生は新しい事業計画などの作成が求められることが予想されます。自分で作成する前に、何が必要なのか、どの順番で必要なのかなど、詳細を検討することが重要であり、それを意識してテキストを読んでほしいと案内がありました。



(3) 昼食前に、個人ワーク課題が示されました。課題は2つ。1つめは、テキストのBtoC事例をワークシートに落とし込むこと、2つめは、前回のグループワークで取り上げた新価値次元創出に成功している例について、詳細を検討することでした。

(4) 11:30から13:00まで、昼食の時間、プラス、個人ワーク課題の検討時間としました。

(5) 13:00から午後の部が開催されました。前回までと同じメンバーで2つのグループに分かれて議論しました。グループワークでは最初に、発表者(前回と重ならないように)と書記を決めることが指示されました。BtoCの事例をワークシートに落とし込むにあたって、単なる穴埋めに終わらないように注意がありました。明確に書かれてない点や、わかりにくい点などを感じ、その理由を考えることの重要性が示されました。



両グループによるグループワーク

(6) 13:50から、グループごとに検討内容を発表しました。発表者からの発表に続いて他のグループメンバー全員から補足コメントがありました。

(7) 14:15から15:15までグループワークに戻り、新価値次元創出に成功している事例について検討しました。まず、何を検討としてとりあげるかを決定しました。

(8) 15:15よりグループワークからゼミナールチームに戻りました。2つのグループから、それぞれ何をテーマに取り上げるのか発表しました。今回のグループワーク結果については、次回の午前中の発表となることが伝えられました。

(9) 次回の進め方について、秘密事項は別として、事例に取り上げても良い場合には申し出てほしいと、案内がありました。

以上で、ゼミナール編を終了しました。第3回の終了にあたり、今回の内容についての振り返りレポートの記述と、キーワードチェック表の記載を行い、事務局までメール送信いただくよう案内がありました。

《振り返りレポートに記載する内容》

- 1) 今回の気づきの確認。
特に、受講前の自分の意見と、受講後の意見の違いについての気づき。
- 2) 内容でわかりにくかった点。
- 3) 運営上、改善を希望する点。
- 4) その他、感想やコメントなど。

◎早わかり講座編 第3回

日 時：2020年10月2日(金) 16:00~17:00

会 場：オンライン(Microsoft Teams)

内 容：環境分析早わかり

参加者：20名

(10) 16:00より、早わかり編が開催されました。岡田講師から環境分析早わかりと題して講義がありました。講義資料は事前に事務局から参加者に送信されました。分析に関係する次回とあわせて2回分の資料が配布されました。

(11) 講義後に、前回の補足として説明がありました。



分析データから、仮定(仮説)を導く方法 演繹法と帰納法がある

https://next.rikunabi.com/journal/20161101_s7/

演繹法の例は、「人間はいつか死ぬ」、「ソクラテスは人間である。」⇒「ソクラテスはいつか死ぬ」
事実を積み重ねて結論を導き出す。

帰納法の例は、①「男女数百人に水に対するアンケートをとった結果、8割の人が水を買うことに肯定的だった」
②「スーパーやコンビニエンスストアで水を買う人は毎年少しずつ増加している」、
③「別のアンケートでは公共の水飲み場や水道の水を飲まないという人の割合が7割を超えた」

⇒ 推論「飲料用水は今後も売れ続ける」という推論を導き出すことができるでしょう。

帰納法とは、さまざまな事実や事例から導き出される傾向をまとめて結論につなげる論理的推論方法を指します。

帰納法で重要視されるのは、多くの事例に共通することをまとめることで、聞く者に「納得感」を与えることです。

⇒ 演繹法は、帰納法とは論理展開が大きく異なり、一般的かつ普遍的な事実(ルール・セオリー)を前提として、そこから結論を導き出す方法です。

一般的に帰納法は調査による統計などを使用する場合に適しており、帰納法はアイデアが正しいことを証明するとき効果的といえます。

(12) 第3回の終了にあたり、今回の内容についての振り返りレポートの記述と、キーワードチェック表の記載を行い、事務局までメール送信いただくよう案内がありました。質問については、振り返りレポートへの記載を依頼し、次回に補足をすることで終了しました。

《振り返りレポートに記載する内容》

1) 今回の気づきの確認。

特に、受講前の自分の意見と、受講後の意見の違いについての気づき。

2) 内容でわかりにくかった点。

3) 運営上、改善を希望する点。

4) その他、感想やコメントなど。

ビジネスプロデュースカ養成ラボ2020 (B-labo)

第3回 実績

2020/ 10/2 (金)

Web(Microsoft Teams)

ゼミナール編	新製品・サービス開発 3
9:30 ~ 10:00	接続確認
10:00 ~	前回振り返りと, 今回内容
~ 10:50	講義: 新規事業の作り方 「理想追求型QCストーリー」の第5章以降
10:50 ~ 11:30	個人ワーク紹介 テキスト記載のBtoC事例をワークシートに落とし込む 午後の議論事例を2つ選び, "新製品アイディア"を検討する
11:30 ~ 13:00	昼休み
13:00 ~ 13:50	グループワーク: BtoC事例をワークシートに落とし込む
13:50 ~ 14:15	発表: グループごとに発表
14:15 ~	休憩
~ 15:15	グループワーク: 事例を選び, ワークシートに落とし込む
15:15 ~ 15:30	グループワーク発表で, とりあげるテーマ
15:30 ~ 16:00	休憩
早わかり講座編	環境分析早わかり
16:00 ~	講義, ディスカッション
~ 16:50	講義, ディスカッション
16:50 ~ 17:00	振返りレポート用紙, キーワードチェック用紙, 記入送信